



(24)

小学校中学年 高学年向け 年組

布類の資源物、行き先は？

師走を迎え、大掃除を考える人も多いこの時期。たんに眠る服を処分しようとした場合、通常は資源物としてごみステーションに出すことになる。では宇都宮市が回収した布類はどうなるのか、調べてみた。

宇都宮

市内のごみステーションは約1万8千カ所。市廃棄物施設課によると、布類は委託先のSKC（同市長岡町）に集められる。その量は年間1700トに上る。回収量は年末に加え、年度末にも増える。同社によると、衣替え時季も増える傾向があるが今秋は暑さが続いたこともあり、回収ピークが11月下旬と遅かった。気候変動は意外などころにも影響している。



(8)

衣料は海外で再利用も



ごみステーションから集められた大量の衣類

残り約半分が資源物となる。資源物の衣料は、茨城県土浦市内のリサイクル業者が買い取っている。約2割は服として使えず、別の専門業者が服の縫製を解き切り分け、工業用ウエス（古繊維を原料とした布製品）に加工される。残りの約8割をリサイクル業者が布の

種類や形状、大きさなどで約110種類まで細かく分別し、マレーシアのリサイクル工場に輸出する。工場では、他から集まった衣料とともにさらに選別される。最終的に中古衣料品として、同国のほか、タイやパキスタンなどアジア圏で販売されるという。SKC担当者は「日本からの衣類は品質が良いと人気のようです」と話す。

主要な流通先は暑い国が

（毎週水、木、金曜掲載。県史版は金曜）

「宇都宮市の衣類の資源物がどのようにリサイクルされるのか」について、以下の図表にまとめました。新聞記事から分かることをもとに、図表を完成させましょう。

設問

宇都宮市の衣類の資源物は、どのようにリサイクルされているのだろうか？

①資源物の状況

- 市内で1年間に集められる布類は ① に上る。
- 集まった衣類の半分はリサイクル対象外で ② として、半分が資源物となる。

②衣類の行き先【国内】

- 衣類の資源物 ➡ 茨城県のリサイクル業者へ。
- 2割 ➡ ③ （古繊維を原料とした布製品）
- 8割 ➡ 布の種類・形・大きさで ④ に細かく分別される。

③衣類の行き先【海外】

さらに分別され、⑥ ⑦ に輸出される。日本からの衣類は ⑧ と人気である。

④まとめ

- 宇都宮市で集められた衣類の資源物は、茨城県からマレーシアに輸出され、⑨ を中心に中古衣料品として販売されていることが分かった。
- 再利用できる衣類は、⑩ 活用されていることが分かった。